

PtA 年次報告書 2021

PtA Annual Report 2021

地域コミュニティにおける高齢者の介護予防・孤立防止を
目的としたニューノーマルな時代の「遊び」開発プロジェクト

PtA: Project team Asobi



愛知県立大学

project_asobi@bur.aichi-pu.ac.jp

表紙写真について

『社員をサーフィンに行かせようーパタゴニア創業者の経営論』（イヴォン シュイナード著、東洋経済新報社、2007）、何とも刺激的で遊び心あふれるタイトルに惹かれ予約購入しました。2007年3月です。我が国では、同年12月に「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」が策定されました。2017年には「働き方改革」が流行語大賞を取りました。ワーク・ライフ・バランス、働き方改革は、コロナが落ち着いた後（アフターコロナ、ポストコロナ、ニューノーマル）には、「コロナが流行する前の状態に完全に戻ることはない」ことを前提にして、働くこと、生きること、遊ぶことを考えていく必要ありそうです。

さて同書によれば、パタゴニア社では勤務中でもサーフィンに行っても良いことになっています。サーフィンに行っても良いことにしている理由は次の4つです。①サーフィンに行くことで仕事が遅れたら、社員の「責任感」で自主的に夜や週末に仕事をすれば良い、②「午後にいい波が来るのでサーフィンに出かけたい」と考えるのであれば、午前中に「高生産性」で仕事に取り組めば良い、③いい波が来ることは正確には事前に予測できない。いい波が来たらずぐに出かけられるよう、日頃から「余裕」を持って仕事を進めれば良い。④「誰かがサーフィンに行っている間に仕事が舞い込んでも」、チームが「協調」して対応できるようにすれば良い、という考え方があるようです。①～④の「責任感」「高生産性」「余裕」「協調」はコロナ禍中のテレワークでも有益だったことが推察されます。また人生100年時代においても重要なことになると思います。

パタゴニアの本社はカリフォルニア州ロサンゼルスから車で約1時間のベンチュラにあります。表紙写真は本社近くのビーチで撮影したものです（2017年9月）。いい波の日でした。パタゴニアの社員がサーフィンを楽しんでいたかもしれません。

ビーチには写真に示すようにバランス良く石が積んでありました。サーファーが沖に出る前に石でも積んで集中力を高めたのかもしれません。あるいは日光浴をしながら、石積み遊びをしていた人がいたのかもしれません。あるいは「人は数千年前から石を積んできました。私はここにいた、生きていたのだ、と伝えるために」（David B. William, *Cairns: Messengers in Stone*, Mountaineers Books, 2012）と置いたのかもしれません。何も意思がないのかもしれませんが。色々と考えさせてくれる石です。



地域コミュニティにおける高齢者の介護予防・孤立防止を目的としたニューノーマルな時代の「遊び」開発プロジェクト
PtA: Project team Asobi

2021 年度メンバー

- 奥田隆史 (愛知県立大学・情報科学部)
松宮 朝 (愛知県立大学・教育福祉学部)
井手広康 (愛知県立小牧高等学校)
宇都宮陽一 ((株)LSET)
内田君子 (名古屋学芸大学・メディア造形学部)
小林敏生 (愛知県立大学・看護学部)
青柳美樹 (愛知県立大学・看護学部)

目次

| | |
|--|----|
| 1. 巻頭言..... | 1 |
| 2. この一年..... | 2 |
| 3. プロジェクトの紹介..... | 3 |
| 産経新聞掲載広告（2011年5月中旬）..... | 3 |
| 中日新聞掲載記事（2021年4月11日朝刊，愛知県なごや東総合版）の要約・補足..... | 3 |
| 愛知県立大学研究活動報告冊子（Re: Birth 2022）より..... | 4 |
| 4. 研究業績（2021年1月から2022年3月）..... | 5 |
| 4.1 著書・学術論文..... | 5 |
| 4.2 国際会議..... | 6 |
| 4.3 招待論文・解説記事・招待講演・セミナー講師など..... | 6 |
| 4.4 国内学会..... | 7 |
| 4.5 表彰など..... | 9 |
| 5. マスコミ掲載..... | 10 |
| 6. 外部資金・寄付..... | 11 |
| 7. 巻末言..... | 12 |

1. 巻頭言

『地域コミュニティにおける高齢者の介護予防・孤立防止を目的としたニューノーマルな時代の「遊び」開発プロジェクト』（略名：『プロジェクト・チーム「遊び」』，英語略：PtA）は2021年度からスタートしました。

この巻頭言はこのプロジェクトの2021年度リーダーの奥田隆史がまとめています。大学の公式情報でも確かにリーダーとなっています。実際は2021年度のリーダー係です。

なぜリーダーでなく、2021年度のリーダー係なのか？このプロジェクト・チームには優秀な研究者は学内外から加わっています。私がすることは、日頃はそれぞれの研究者にプロとしての研究をしていただき個を研鑽してもらうことの邪魔をしないことです。そろそろ研究会でもしたいなというメンバーの内なる声を察知し、そのタイミングで、「研究会（“夜遊び”と呼んでいます）ですよ。全員集合！」と声がけし、問題解決に力を貸してもらうことです。リーダーシップたっぷりのリーダーよりもお世話をするようなリーダー係のつもりです。なお2021年度の夜遊びはオンライン実施を原則として、その基本構成は、(1)話題提供（メンバー、学外有識者）、(2)質疑応答・フリーディスカッションとしました。夜遊びはその年度のリーダー係が実施の仕方や時期を、変えていけば良いと考えています。

このようにしてプロジェクトを進めていく理由は、今風に表すならばワーク・ライフ・バランス（ワーク・ライフ・ハピネス）をとるためです。つまり個人本業研究・本プロジェクト研究・バランスを取ってもらいたいのです。本プロジェクトのように専門が違うメンバーが集う学際的研究では、本人が関係ないと思っている各自の研究成果が、他人から見るととても貴重なことがあるからです。逆に、他人の研究がヒントになり、本人の本業に好影響を与えることも多々あります。このプロジェクトは遊びを扱っていますからこそ、本人の本業研究がとても大切になります。そのため本報告書では各個人の研究成果も掲載するようにしています。ぜひご覧になり、忌憚のないご意見・ご鞭撻をお寄せいただければ幸いです。

またこのプロジェクトは「この指止まれ」スピリットを大切にしています。実際、5名でスタートしたプロジェクトですが、現時点では7名になりました。映画『七人の侍』に倣うと「七人の遊び人」です。来年度には新メンバーが学外から1名加わる予定です。8名になります。戯曲『八人の女達』に倣うと「八人の遊び人」になります。

メンバーに加わりたいという方は遠慮なくお知らせください。次は『サイボーグ 009』に倣って「遊び人009」、・・・、「遊び殿の13人」、「遊び将軍15代」まではニックネームを考えています。ではお楽しみください！

2022年、令和3年3月吉日

略称プロジェクト・チーム「遊び」(PtA) 2021年度リーダー係 奥田隆史

2. この一年

ここでは本プロジェクトにおいて実施したイベントについてまとめています。なお学会発表などについては研究業績セクションに掲載しています。また日頃の研究打合せ、フィールド調査などについては省略しています。

| 日時・場所 | 実施イベントの内容など | 備考 |
|--|---|------------|
| 2021年4月15日 18:00~19:30 オンライン | キックオフ・ミーティング（夜遊び0） 下記のことを決めた。 今後の研究会開催方法：公開。コロナ禍以後も原則オンライン。開始時刻は夕刻。話題提供者1名（メンバーから始め、外部講師も招聘する）。開催月（学会発表のない月）：5, 6, 7, 10, 11を中心に年間4回程度開催。学会発表計画（適宜、学会発表など）。情報共有システム：バックログ (https://backlog.com/ja/) | |
| 2022年5月20日 19:00~20:30 オンライン | 第1回研究会（夜遊び） 話題提供：宇都宮陽一、「餅撒きの撒き手、拾い手の戦略について」 | |
| 2022年6月24日 19:00~20:30 オンライン | 第2回研究会（夜遊び） 話題提供：井手広康、「麻雀などの不完全情報ゲームにおける攪拌の数理モデル」 | |
| 令和3年11月8日 15:00~19:00 講演は16:10~17:40 | 第3回研究会（夜遊び） 話題提供：石垣尚男先生（愛工大名誉教授）「テニカラと科学そして認知症予防のQST」 | オンデマンド共有あり |
| 令和3年12月6日 15:00~19:00 講演は16:10~17:40 | 第4回研究会（夜遊び） 話題提供：羽根しげ子先生（日本棋院中部総本部）「囲碁と認知症予防の可能性」 | オンデマンド共有あり |

3. プロジェクトの紹介

ここでは、本プロジェクトに関する2021年の公開情報をまとめます。なお詳細は愛知県立大学・研究推進局のHPをご覧ください。

産経新聞掲載広告（2011年5月中旬）

「遊び」は人間活動の本質であり、人生に欠かせないものです。人生100年時代、これを有意義に過ごすためには、幼少期の「遊び」、高齢者の介護予防・孤立防止につながる「遊び」、あらゆる世代における「遊び」が大切です。社会科学・情報科学からのアプローチで新しい「遊び」を研究開発します。

中日新聞掲載記事（2021年4月11日朝刊、愛知県なごや東総合版）の要約・補足

高齢者が平等に楽しめる遊びとは一県立大学で開発プロジェクト始動

数理モデルを使って、高齢者が平等に楽しめるような新しい遊びを開発するプロジェクトが、長久手市の県立大で今月立ち上がった。五年間の計画で、地域の高齢者施設などで調査をしながら介護予防にもつなげる狙いという。同大の「あいち認知症パートナー大学」事業にも貢献できるようなプロジェクト。

本プロジェクトメンバーは、「数理モデル化と問題解決」、「オペレーションズ・リサーチ」が専門の奥田隆史教授(情報科学部)、「社会調査法」の松宮朝准教授(教育福祉学部)、同大学で博士(情報科学)の学位を取得した学外有識者3人からなる計五人。奥田教授らのグループは「トランプが最もよく交ざる切り方の組み合わせ」「配牌のランダム性を高める自動麻雀卓攪拌アルゴリズム」「餅まき参加者の平均満足度を最適にする餅まき戦略」「学生の発話を促す最適なグループ分けアルゴリズム」といった、日常の小さな課題の最適化を図る数理モデルの研究などで実績がある。プロジェクトでも、数理モデルを使い、経験の有無や能力差によらず、平等に勝ちやすくする遊びで参加意欲を生み、孤立予防を目指す。

研究のきっかけは、松宮氏との通学時の雑談で話題になった「健康マージャン」。近年、高齢者に人気だが、奥田教授は「高齢の父親も自分も、頑固。負け続けると参加しなくなってしまう」と話す。「コロナ禍中、その後も密を防ぐ、触れる道具は消毒する、といった制限がある。制限の中でこそ、数理モデルや最適化理論を使って答えが導きやすくなる」といい、コロナ禍を逆手に取った発想も基にあるという。「奥田教授は「高齢者の創造性を刺激することで地域に役立てられれば」と意気込んでいる。今月末ごろから施設に入り、高齢者の活動の改善点から調査を進めていく。

コンピューターには今もアフリカが足りていない (ブライアン・イーノ).

人生 100 年時代を見据えると、社会に遊びが足りていないかもしれない (PtA).

「地域コミュニティにおける高齢者の介護予防・孤立防止を目的としたニューノーマルな時代の「遊び」開発プロジェクト」, 略名は「遊び」プロジェクトです. ここでは「遊び」を学際的に問い直すとともに, 人生 100 年を見据えた新しい遊びを開発しています. なお愛県大研究推進局はプロジェクト・チームのことを PT と略していることと, 椎名誠氏主催の野外キャンプ会, 怪しい探検隊にちなんで, 「怪しい PtA」と称するのも愉快かもしれません. この原稿では PtA と称することにします. ところで, 人間とは? 歴史家ホイジンガは, 人間のことを「ホモ・ルーデンス=遊ぶ人」とし, 遊びは文化に先行しており, 遊びこそが人間活動の本質であると述べています.

その遊びが, 高齢者の介護予防・孤立防止にも役立ちそうだということで PtA を立ち上げました. さて遊びの大切さを表す諺に「よく学びよく遊べ」(立派な人間になるためには, 勉強するときはしっかり勉強し, 遊ぶときは思いきり遊ぶべきだ), 「遊びに師なし」(遊び事は, 誰に教えられるでもなく自然に覚えてしまう) があります. 英語の諺—“All work and no play makes Jack a dull boy.” (勉強ばかりして遊ばないと子供は〇〇になる/仕事ばかりしている人間は面白みのない人になる) でも遊びの大切さを認めています. 昔から人は「遊び」の特徴, 大切さに気がついていたのです. 現代でも, 車のハンドルにも“遊び”がないと, 非常に運転しにくいことが知られています.

遊びは大切! と諺でも言われながら, 野外での遊び場が少なくなってきました. 遊び場があっても色々な遊びが禁止されています. コロナ禍で禁止事項も増えました. 初年度の PtA にも実空間には広場がありません. ですがオンラインには無限の広場があります. オンライン広場で PtA は, 4 月夕刻から夜遊びと称して, キックオフ・ミーティングをしました. 参加者は本学教員 2 名: 奥田隆史 (情報科学部), 松宮朝 (教育福祉学部), 本学大学院情報科学研究科で博士 (情報科学) の学位を取得された客員研究員 3 名: 井手広康 (県立小牧高等学校), 宇都宮陽一 ((株)LSET), 内田君子 (名古屋学芸大学) です. この夜遊びでは次の①~④をユルーク約束しました.

①新しい遊び人は常時募集中. ②人類や社会に貢献できるようであれば, 原則 OK! やってみる. やってみてダメなら直ぐ止める. ③せっかく大学に認めていただいた萌芽的なプロジェクト. 交渉や会議でなく, 人類, 社会に貢献できるよう, 学術学会に認められるよう研究にエネルギーを使う④“楽しくなければ研究じゃない”, いつも遊び心を持って取り組む. 活動が本格化する前, 2 つの良い知らせがありました. ①PtA に関するインタビュー記事が中日新聞朝刊 (4 月 21 日) に掲載されました. ②科学研究費・挑戦的研究(萌芽)「ムードチェンジャー役ロボットによるいじめの予防・抑制に関する研究」(代表: 奥田, 分担: 内田) が採択されました (7 月).

5 月は「餅まきの数理モデル」(宇都宮), 6 月は「不完全情報ゲームにおける攪拌の数理モデル」(井手) という話題で夜遊びをしました. この頃, 本学看護学部の小林敏生先生, 青柳美樹先生がメンバーに加わりました. 映画『七人の侍』ならぬ「7 人の遊び人」の誕生です. この頃から, 遊びをより広義に捉えるようになりました. その一環から, 11 月は愛知県山間部で活動されている石垣尚男先生 (愛工大名誉教授) から「テンカラ」, 12 月は長久手市の教育委員会委員でもある羽根しげ子先生 (日本棋院中部総本部) から「囲碁」に関する講演をいただきました. 2022 年 2 月には学術学会誌に査読論文が掲載され, PtA は幸先の良いスタートを切りましたとき♪

4. 研究業績 (2021 年 1 月から 2022 年 3 月)

ここでは本プロジェクトに関連するメンバーの著書・学術論文、国際会議、招待論文・解説記事・招待講演・セミナー講師、国内学会など研究業績をまとめました。なお本プロジェクトメンバーは下線を引いています。

4.1 著書・学術論文

- [1] 松宮朝：『かかわりの循環—コミュニティ実践の社会学』，晃洋書房，2022 年 3 月。
- [2] 大谷良子，作間非弘美，江守陽子，遠藤芳子，青柳美樹，佐藤つかさ，竹本由香里：岩手県内の医療機関で働く 20 歳代の看護職者の地元志向と職業的アイデンティティに関する調査，北日本看護学会誌 Vol.23, No.2, pp.27-36, 2021 年 2 月。
- [3] 上村千鶴，八橋孝介，高瀬美由紀，小林敏生：看護専修学校生の学習行動に対する動機づけ 4 因子の関与についての仮説モデルの検証，安田女子大学紀要，No.49, pp.327-336, 2021 年 2 月。
- [4] 安東由佳子，奥田鈴美，青木駿介，小林敏生：在宅パーキンソン病患者の疾病自己管理状況と抑うつ症状の実態，日本看護研究学会雑誌，Vol.44, No.1, pp.123-133, 2021 年 3 月。 <https://doi.org/10.15065/jjsnr.20200705101>。
- [5] 沼田郁子，小林敏生，田淵啓二：長距離ランニングを継続して行っている向老者・高齢者の健康状態と健康管理行動，健康科学と人間形成，Vol.7, No.1, pp.11-21, 2021 年 8 月。 <http://dx.doi.org/10.18883/johcu.0701.04>
- [6] 内田君子，奥田隆史：TBL における座席位置と学習成果との関係，名古屋学芸大学研究紀要教養・学際編，No.17, pp.29-38, 2021 年 3 月。
- [7] 井手広康，奥田隆史：高等学校におけるプログラミング環境の違いによって生じる教育効果に関する比較，日本産業技術教育学会論文誌，Vol.63, No.2, pp.269-278, 2021 年 6 月。
- [8] 松宮朝：新型コロナウイルス感染症と社会の脆弱性・新たな格差，東海社会学会年報，13 号，pp.1-4, 2021 年 7 月。
- [9] 大藤哲平，奥田隆史：マルチエージェントシステムによるフォーク並びなし待ち行列平滑化仕掛けの効果検証，電気学会論文誌 C (電子・情報・システム部門誌)，Vol.142, No.2, pp.190-197, 2022 年 2 月。 <https://doi.org/10.1541/ieejieiss.142.190>。

4.2 国際会議

- [1] Mikio Katsu, Takashi Okuda : Performance analysis of service architectures applying queueing systems, Proceedings of the IEEE International Conference on Consumer Electronics-Taiwan(ICCE-TW), C7-1, online, September 15,2021. (査読有り)
- [2] Ryoko Hidaka, Ikuko Sobue, Ryoko Ito, Miki Yano, Toshio Kobayashi: Sexual Satisfaction of Japanese Couples with Small Children. The 25th Congress of the World Association for Sexual Health (WAS). Sep,9-21, 2021.
- [3] Ryoko Hidaka, Ikuko Sobue, Ryoko Ito, Miki Yano, Toshio Kobayashi: Relationship and Sexual Satisfaction in Couple Raising Young Children: a Comparative Study between Japan and Finland. The 4th Conference on Public Health in Asia (COPHA 2021). Dec,2-3, 2021

4.3 招待論文・解説記事・招待講演・セミナー講師など

- [1] 井手広康, 他 (共著) : 高等学校「情報」実践事例集, 文部科学省・高等学校のための実践事例集ワーキンググループ, 2021年3月24日.
- [2] 井手広康 : 大学入学共通テスト「情報」試作問題に対する教育現場の想い, 情報処理, Vol.62, No.5, pp.254-257, 2021年4月.
- [3] 井手広康, 他 (共著) : 技術科教員指導能力認定試験・中学校技術科教員採用試験ー技術科教員を目指す方へー, 2021年度参考書, 日本産業技術教育学会・技術科教員指導能力認定試験事務局, 2021年5月14日.
- [4] 井手広康 : 情報 I の教科書に関する分析とシミュレーションの授業実践, 高等学校「情報科」セミナーー高校の現場から見る大学入学共通テスト「情報」ー, 2021年10月2日.
- [5] 井手広康 : 高等学校におけるウイルス感染シミュレーションの実践と今後の情報教育に関する展望, 令和3年度日本技術士会中部本部電気電子情報工学部会9月度例会, 2021年9月11日.
- [6] 小林敏生 : 森林資源を活用した健康保持増進効果, (独)労働者健康安全機構広島産業保健総合支援センター産業保健セミナー: 職場での森林セラピーを用いたメンタルヘルス対策, オンライン開催, 2021年9月21日.
- [7] 小林敏生, 松本直子 : メンタルヘルス活動とマネジメント対策ー森林セラピーの効果を実際に体験して感じよう♪~, (独)労働者健康安全機構広島産業保健総合支援センター産業保健セミナー: 職場での森林セラピーを用いたメンタルヘルス対策, 龍頭峡交流の森 森林館 (広島県山県郡安芸太田町), 2021年10月23日.
- [8] 井手広康 : 「情報 I」教科書の動向, 情報処理学会 高校教科「情報」シンポジウム 2021秋, 2021年10月9日.

- [9] 奥田隆史：OR（オペレーションズ・リサーチ）－問題解決の工具箱－，第3回テーマ：DXへの取り組み・オペレーションズ・リサーチ，あいち・なごやエアロスペースコンソーシアム主催・2021年度航空機産業製造人材育成講座，オンデマンド，視聴登録・配信期間2021年10月19日～11月8日。
- [10] 井手広康：博士論文「不完全情報ゲームにおける攪拌に関する研究」とその後の研究：AIの活用へ，愛県大アカデミックデイ2021，オンデマンド，視聴登録・配信期間，2021年12月8日～13日。
- [11] 奥田隆史：数理モデルとそのシミュレーションで鶏圧死問題を考える(特集 養鶏の未来・日本の畜産を明るく!)，養鶏の友，日本畜産振興会，pp.34-38，2022年1月。

4.4 国内学会

- [1] 青柳美樹，多賀昌江，徳澤麻梨子，高山裕子，石田知世：文献からみた渡航看護のコンピテンシー－コンピテンシー・モデルの開発の第1歩－，感性フォーラム2021講演論文集，pp.25-26，2021年2月13日
- [2] 井手広康：大学入学共通テスト「情報」試作問題を踏まえた今後の情報教育の在り方，日本産業技術教育学会第36回情報分科会(高知)研究発表会講演論文集，発表番号19，pp.53-54(2021). 2021年3月14日
- [3] 井手広康：大学入学共通テスト「情報」試作問題におけるシミュレーション問題に対する分析，情報処理学会コンピュータと教育研究会第158回CE研究発表会，Vol.2021-CE-158, No.9, pp.1-8(2021). 2021年2月13日
- [4] 宇都宮陽一：餅撒き「餅撒きの撒き手，拾い手の戦略について」，地域コミュニティにおける高齢者の介護予防・孤立防止を目的としたニューノーマルな時代の「遊び」開発プロジェクト，2021年5月定例会，オンライン開催，2021年5月20日。
- [5] 井手広康：麻雀などの不完全情報ゲームにおける攪拌の数理モデル，地域コミュニティにおける高齢者の介護予防・孤立防止を目的としたニューノーマルな時代の「遊び」開発プロジェクト」にて「遊び」に関するプロジェクト第2回研究会，2021年6月24日。
- [6] 井手広康：情報Iの教科書におけるプログラミング分野の比較と分析，日本情報科教育学会第14回全国大会(オンライン)講演論文集，3-A-4, pp.44-45(2021). 2021年7月4日。
- [7] 安井一真，奥田隆史：マルチエージェントシミュレーションを用いた鬼ごっこの分析，SSOR中部支部2021オンライン，発表番号1，オンライン開催，2021年8月21日。
- [8] 工藤友泰，奥田隆史：ネットワークシミュレータと機械学習を利用した情報通信ネットワークシステムの性能評価手法の提案，SSOR中部支部2021オンライン，発表番号2，オンライン開催，2021年8月21日。

- [9] 兵藤悠也, 奥田隆史: 新たな移動体の混在する交差点における安全な交通ルールの検討, SSOR 中部支部 2021 オンライン, 発表番号 8, オンライン開催, 2021 年 8 月 21 日.
- [10] 大藤哲平, 奥田隆史: 仕掛けを用いたフォーク並びなし待ち行列平滑化の試み", SSOR 中部支部 2021 オンライン, 発表番号 9, オンライン開催, 2021 年 8 月 21 日.
- [11] 井手広康: 情報 I を想定したプログラミング教育における言語の比較, 日本産業技術教育学会 第 64 回全国大会(札幌)講演要旨集, 2C21, p.58(2021), 2021 年 8 月 29 日
- [12] 井手広康: 大学入学共通テスト「情報」サンプル問題を踏まえた情報 I の教科書におけるプログラミング分野の比較, 情報処理学会 情報教育シンポジウム 2021 論文集, 9-1, pp.246-253(2021). 2021 年 8 月 29 日.
- [13] 兵藤悠也, 奥田隆史: マルチエージェントモデルによる多様な移動体の混在する交差点における安全性検証, 電気学会東海支部若手セミナー「IoT のための情報通信と信号処理」令和 3 年度 第 1 回, 発表番号 6, オンライン開催, 2021 年 8 月 31 日.
- [14] 宇都宮陽一, 奥田隆史: 餅撒き型リソース配分問題における撒き手と拾い手の最適な関係構築, 令和 3 年度電気学会東海支部若手セミナー「IoT のための情報通信と信号処理」(第 1 回), 講演番号 5, オンライン開催, 2021 年 8 月 31 日.
- [15] 勝幹雄, 奥田隆史: Tree Augmented Naive Bayes を用いた新たな特徴選択規準の提案, 令和 3 年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会, 講演番号 G1-1, 愛知工業大学 (オンライン), 2021 年 9 月 7 日.
- [16] 内田君子, 奥田隆史: コロナ禍における大学生のグループ活動に対する意向調査, 令和 3 年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会講演論文集, H4-2, 愛知工業大学 (オンライン開催), 2021 年 9 月 8 日.
- [17] 兵藤悠也, 奥田隆史: マルチエージェントモデルによる多様な移動体の混在する交差点における交通ルールの PoC, 情報処理学会第 136 回数理モデル化と問題解決(MPS)研究会, 発表番号 6, 6 頁, オンライン開催, 2021 年 12 月 13 日.
- [18] 大藤哲平, 奥田隆史: 並列待ち行列平滑化効果を持つ仕掛けの検討, 情報処理学会第 136 回数理モデル化と問題解決(MPS)研究会, 発表番号 19, 2 頁, オンライン開催, 2021 年 12 月 13 日.
- [19] 青柳美樹, 多賀昌江, 徳澤麻梨子, 高山裕子: 産業看護職が語る渡航看護のコンピテンシー, 日本産業勸業看護学会 第 10 回学術集会 (オンライン開催) 抄録集, p.122, 2021 年 11 月 15 日~12 月 24 日.
- [20] 工藤友泰, 二井克, 奥田隆史: 直列型待ち行列システム性能評価のための教師データ構成の検討, 令和 3 年度電気学会東海支部若手セミナー「IoT のための情報通信と信号処理」(第 2 回), 発表番号 5, オンライン開催, 2022 年 2 月 24 日.
- [21] 安井一真, 宇都宮陽一, 奥田隆史: マルチエージェントモデルによる鬼ごっこの分析, 令和 3 年度電気学会東海支部若手セミナー「IoT のための情報通信と信号処理」(第 2

回), 発表番号 6, オンライン開催, 2022 年 2 月 24 日.

- [22] 安井一真, 宇都宮陽一, 奥田隆史: マルチエージェントシミュレーションを用いた鬼ごっこにおける鬼の作戦の評価, 第 84 回情報処理学会全国大会, 5ZD-02, 2 頁, オンライン開催 (愛媛大学), 2022 年 3 月 4 日.
- [23] 工藤友泰, 二井克, 奥田隆史: 機械学習を用いた直列型待ち行列システムの性能評価, 第 84 回情報処理学会全国大会, 6M-05, 2 頁, オンライン開催 (愛媛大学), 2022 年 3 月 5 日.
- [24] 内田君子, 奥田隆史, GP スコアを利用したチーム構成手法の提案, 第 84 回情報処理学会全国大会, 5H-03, 2 頁, オンライン開催 (愛媛大学), 2022 年 3 月 4 日.
- [25] 小野航, 大藤哲平, 奥田隆史: マルチエージェントシミュレーションによる並列待ち行列を平滑化する仕掛けの検討, 第 49 回オペレーションズ・リサーチ学会中部支部研究発表会, 発表番号 9, オンライン開催, 2022 年 3 月 5 日.
- [26] 山中健照, 兵藤悠也, 奥田隆史: 多様な移動体の混在に対応した交通ルールの PoC, 第 49 回オペレーションズ・リサーチ学会中部支部研究発表会, 発表番号 10, オンライン開催, 2022 年 3 月 5 日.

4.5 表彰など

- [1] 井手広康: 教育実践奨励賞, 日本教育会 愛知県支部, 2021 年 2 月.
- [2] 井手広康: 優秀発表賞, 情報処理学会情報教育シンポジウム 2021, 2021 年 8 月 29 日.
- [3] 奥田隆史: 日本オペレーションズ・リサーチ学会フェロー称号, 2022 年 3 月 16 日.

5. マスコミ掲載

- [1] 高齢者が平等に楽しめる遊びとは 県立大学で開発プロジェクト始動, 中日新聞, 2021年4月11日. (奥田隆史)
- [2] 新学習指導要領の教科「情報」と大学入試の課題を専門家が議論, 日経 BP 教育と ICT Online, 2021年11月10日. (井手広康)
- [3] 高校新課程の実施に向けて:教科科目別の指導「情報Ⅰ」, 河合塾全国進学情報センター Guideline 2021年10・11月号, 2021年10月20日. (井手広康)
- [4] 高等学校「情報科」セミナー:高校の現場から見る大学入学共通テスト「情報」セミナーレポート Vol.2, アシアル情報教育研究所 実践事例研究会・学会活動・イベントレポート, 2021年10月15日. (井手広康)
- [5] 高校「情報科」でプログラミングなど必修化 手探りの授業や入試対策, 中日新聞, 2021年8月4日. (井手広康)
- [6] 情報Ⅰの教科書におけるプログラミング分野の比較と分析, 河合塾教育研究部「キミのミライ発見」, 2021年7月26日. (井手広康)
- [7] 教科「情報」再編、悩む教師「だれに相談を」座談会, 朝日新聞, 2021年7月20日. (井手広康)
- [8] 高校の情報教育 免許なし教員5人に1人, 静岡新聞, 2021年3月26日. (井手広康)

6. 外部資金・寄付

新規

- [1] 井手広康（研究代表者）：プログラミング教育において異なる言語間に生じる教育効果に関する分析，日本学術振興会科学研究費助成事業・奨励研究，2021年4月から2022年3月まで。
- [2] 奥田隆史（研究代表者）・内田君子（研究分担者），ムードチェンジャー役ロボットによるいじめの予防・抑制に関する研究，日本学術振興会科学研究費助成事業・挑戦的研究(萌芽)，2021年4月から2023年3月まで。
- [3] 小林敏生（研究代表者），環境下でのリモートワークが労働者のメンタルヘルスと労働効率に及ぼす影響：日本学術振興会科学研究費補助金・基盤(C)，2021年4月から2024年3月まで。
- [4] 奥田隆史（研究分担者），力覚フィードバックを用いた人による遠隔ロボット支援の繊細かつ柔軟化，日本学術振興会科学研究費助成事業・基盤研究（C），2021年4月から2023年3月まで。

継続

- [1] 青柳美樹（研究代表者），渡航看護のコンピテンシー・モデルの開発と渡航看護認識向上プログラムの検討，日本学術振興会科学研究費助成事業・基盤研究（C），2019年4月から2024年3月まで
- [2] 井手広康（研究代表者）：高等学校における Python の実行環境の違いによる教育効果に関する研究，日本学術振興会科学研究費助成事業・奨励研究，2020年4月から2021年7月。
- [3] 小林敏生（研究分担者），病院看護師における夜勤時の眠気と先行睡眠・勤務時間・身体活動との関連，日本学術振興会科学研究費補助金・基盤(C)，2018年4月から2021年3月まで。
- [4] 小林敏生（研究分担者），看護学生のキャリア教育につながるマインドフルネスを活用したストレス対処力育成，日本学術振興会科学研究費補助金・基盤(C)，2017年4月から2021年3月まで。
- [5] 小林敏生（研究分担者），女性看護師が生き生きと労働生活を送るための要因に関する研究，日本学術振興会科学研究費補助金・基盤(C)，2017年4月から2021年3月まで。
- [6] 奥田隆史（研究分担者），複数の利用者とロボット間における力覚フィードバックを用いた協調作業の高度化，日本学術振興会科学研究費助成事業・基盤研究（C），2018年4月から2021年3月まで。

7. 巻末言

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、2019年12月初旬に第1例目の感染者が報告されてから、わずか数カ月ほどの間にパンデミックと言われる世界的な流行となりました。国内においては2020年1月15日に最初の感染者が確認された後、初の緊急事態宣言が発令されたのは2020年4月7日でした。ワクチン接種が進んだとはいえ、2022年3月時点でもまだまだ油断できない状況が続いています。

COVID-19の流行により、多くの企業がテレワークに切り替えました。結果として、在宅勤務を経験することで、我々は様々な「満員電車に乗らなくていい」、「通勤時間が浮く」などメリットを享受しました。このメリットは、アフターコロナでも、何かしらの形で残っていくのではないのでしょうか。そもそもCOVID-19の流行がなければ、このプロジェクトを申請することはなかったでしょう。またオンライン会議の環境がなければ、この1年間は何も活動ができなかったと思います。人間社会および生物界における生存闘争において、生活環境によりよく適応したものが勝利者になるということを思い出しました。

よりよく適応するためにも、遊びと呼ばれている行為には、大切な役割がありそうです。この一年間のメンバー間での議論を通じて、改めて、遊びの多面性、奥深さ、単純さと複雑さがわかりました。また“人間文化は遊びのなかにおいて、遊びとして発生し、展開してきたのだ”とホイジンが『ホモ・ルーデンス』で書いたことも実感しています。とはいえ、まだまだわからないことだらけです。

以下、この1年間に目にした書籍、新聞、TV番組などから“遊び”についての文章を示して、2021年度の報告とします。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

遊戯精神と文化

私はとくに、この日本語訳によって、日本の一般読者に近づけるようになったことをうれしく思っている。花を活ける芸術によって、茶の儀式によって、また伝統的な短詩の厳密な形式によって、凧あげによって、武士道 (bushido) の道徳によって、弓を射る洗練された作法によって、禅 (zen) 問答の意味深いやりとりによって、日本文化は、その歴史の全体を通じて、遊戯精神との明白な血縁関係を、いわば誇示しているように思われる。(ロジェ・カイヨウ著、多田道太郎・塚崎幹夫訳、『遊びと人間』、講談社、1990。日本語序文より)

遊びが価値になる時代

「現代は、『遊び』が価値になる時代。将来の夢はなくていい。好きなこと、楽しいことにどどんどのめりこむことが、人生の豊かさに直結する」(“ (フロントランナー) ピアニスト・角野隼斗さん 垣根なき王国で、奏でる独創”, 朝日新聞 Be, 2022年1月8日)

無駄に無駄なし

「もう合理的に練習も進めていく。しょうがないですね、時間がないから。当然なんですけど」「『無駄』なことから学ぶことがやっぱ多いので、それができないのはかわいそうでもあるけれども、でもしょうがないんでそれは」「無駄なことはできるだけやったほうが良いですよ、じゃないと合理的になれないでしょ。頭で理解しているだけのケースって今、多いと思うんですけど、それは危険だと思いますね、本来は」(シアトルマリナーズ会長付特別補佐兼インストラクターイチロー, TBS系「news23」, 2022年1月10日放送)

カップラーメンを楽しむ「余裕と遊び」

精神の「遊び」についても見てみよう。精神の遊びとは、意識が硬直しておらず、「ゆらぎ」のある状態ともいえる。・・・ふだんは食生活に気をつけていても、たまにカップラーメンを食べるという暮らしは、遊びがある生活と断言していいだろう。・・・規律やよいことにしばられた生活を送るより、日常に余裕や遊びのある人のほうが、ゆらぐ。つまり、意識がそれだけ動くのだ。それが多角的な視点につながるの、言わずもがなだろう。(山口揚平, “仕事も人生もうまくいく「開運の法則」”, pp.16-22, プレジデント 2022年2月4日号)

現代は遊動の時代

「世界は遊動の時代に入った」。日本学術会議会長や京都大学総長を務めた霊長類学者の山極壽一氏はこう指摘する。人類は長きにわたり狩猟や採集をしながら遊動生活を送ってきたが、農耕や牧畜の発明に伴い生活形態が変化し、現代人にとっては定住生活が当たり前となった。それから 1 万年以上を経て、人類は再び遊動生活を選びつつある。われわれはそういう時代の大転換期に立っているのかもしれない。自らが生きる時代がどのように位置づけられるのか、その時代の当事者には見えづらい。しかし実際に現在の社会で起きている事柄を見れば、確かに遊動の時代の兆しを感じる。

急速に注目を集め始めているワーケーションやリモートワークも、こうした遊動の時代への流れに連なるものと考えられる。政府は 3 月 19 日、国民 1 人 1 人が真に豊かさを実感できる住生活の実現に向けた施策の基本となる新たな住生活基本計画を閣議決定した。その中で多拠点居住などの動きに触れ、「コロナ禍を契機とした生活様式や働き方の変化は、単にそれに伴う住まい方の変化に留まるものではなく、勤務場所に縛られないライフスタイルや二地域居住・地方居住、ワーケーションといった暮らし方や生き方そのものについて新たな価値観をもたらし、ポストコロナの豊かな人生を実現するための重要な機会を提供する」との考えを示した。そのうえで、テレワーク等を活用した地方、郊外での居住や二地域居住など複数地域での住まいを实践する動きに積極的に対応していく姿勢を打ち出した。

<https://www.tjnet.co.jp/2021/04/26/%E9%81%8A%E5%8B%95%E3%81%AE%E6%99%82%E4%BB%A3%E3%80%80%E6%96%B0%E3%81%9F%E3%81%AA%E6%97%85%E3%81%AE%E3%83%87%E3%82%B6%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%81%B8/>

